

平成 28 年熊本地震
座屈マンションからの救助事案



熊本市消防局中央消防署警防課（二部）
警防課長代理 消防司令 吉本 直樹

1 本震発災

4月16日1時25分、私は勤務中の中央消防署にて「ゴー、ガシャンガシャン」という音とともに前震よりも激しい本震に見舞われました。身を守ろうと机の下に身体を入れようとしたのですが、揺れに翻弄され床で転げるのみでした。

停電した事務所内をフラッシュライトの明かりで確認すると、固定されていないものはすべて落下もしくは転倒していましたが、車両やシャッターは無事で、なにより隊員に負傷者はなく安堵しました。

その後、次から次に流れる救助等の指令で各隊は順次出場して行くこととなりました。

2 活動概要

○覚知から出場途上

2時2分、既に座屈ビルの建物救助で単隊出場していた西消防署島崎ポンプ小隊の増隊要請により、中央消防署指揮隊中隊長として出場しました。

出場途上、暗闇の中ヘッドライトに浮かんだ損壊した道路、倒壊寸前の建物に目を奪われ、14日の前震に続き、再び到来した否定しがたい状況に一瞬震撼しましたが、気持ちを奮い立たせ、現場の状況をイメージしながら現場へと急行しました。

○現場到着時の状況

現場に到着し、先着していた島崎ポンプ小隊と接触したところ、小隊長からの情報では、建物は7階建ての耐火造で1階駐車場部分の座屈による車両からの燃料漏れ、

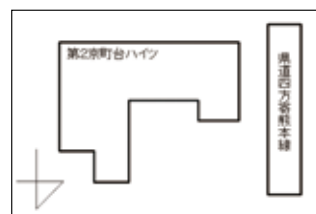
建物躯体に無数のクラック及び都市ガスの漏洩があり、要救助者数は外観から7階ベランダ部分に4名の手振りが確認できるが、その他に何名いるかは不明という状況でした。

災害現場の詳細を確認するため、先着小隊長及び中隊長で建物内部への進入を実施しました。また、後着した特命出場のポンプ小隊2隊は、大隊長の下命により、警戒区域の設定と指揮本部の設置、警戒筒先の配備、駐車場の車両からの燃料漏洩の処理を行いました。

○屋内進入

進入経路は西側の屋内階段及び北側の屋外階段の2箇所のみで、屋外階段は座屈のため使用できなかったことから、屋内階段から進入しました。

建物西側玄関から内部へ進入するとすぐにガス臭が鼻を突き、ライトに浮かんだ壁、天井、床には大小無数のクラックが確認でき、建物全体が東側へと大きく傾斜していました。



建物上から見た図

部屋番号		救出人数				
701	702	703	704	705		
2名	2名	3名				
601	602	603	604	605	606	607
501	502	503	504	505	506	507
				2名	1名	
401	402	403	404	405	406	407
				1名	1名	
301	302	303	304	305	306	307
201	202	203	204	205	206	207
	1名					
101	管理組合事務所	飲食店				車庫

救出人数と部屋番号

強い余震が継続していることから、倒壊する前に直ちに各住戸を検索し、逃げ遅れ者の救助活動にかかりました。



座屈マンションへの進入

○屋上からの救出

屋内階段から要救助者が確認できる7階を目指し上方へ向かうにつれ、ガス臭が強くなりました。各居室の玄関ドアは外側に向け変形により膨らみ、人力での開放は出来ません。7階部分に到達し、要救助者がいる部屋の唯一の進入口である玄関ドアを開けようとしますが、手持ちの救助資機材（バール1本）では、ガスの滞留があるため破壊時の火花からの爆発を考慮するとこれもまた無理でした。

そこで、屋上から7階へ進入し上方へ救助することとし、屋上を目指しますが、階段室最上部の屋上入り口ドアは施錠のため開放できず、ガス臭はかなりの濃さでした。そのため、慎重にドアガラス部分を破壊し、屋上側のドアノブに手を回し解錠してドアを開け、屋上部分に到達しました。

屋上部分を確認すると、らくだの背中のように大きく波打ち、東側に進むにつれ下方へ傾斜しており、建物のダメージが強いことがわかりました。屋上から7階の要救助者へ向け呼びかけると反応があり、4名とも負傷がないことが確認できたため、隊員2名の増援及び単梯子の屋上への搬送を



福岡県隊との合同指揮の様子

大隊長へ無線連絡しました。

増援隊員及び単梯子到着後、屋上から7階へ梯子を逆伸梯し隊員1名を投入して、中隊長以下4名で要救助者を屋上へ誘導しました。ガス漏洩のある屋内階段から地上への救出は危険と判断したため、屋上北側の屋外階段を使用することとしました。屋外階段部分に到達し進入ゲートを確認したところ、南京錠により施錠されていたため、バールを使用し南京錠を破壊してゲートを開放し階下へと急ぎました。屋外階段1階部分は座屈により使用できないことから、事前に設定していた屋外階段2階部分への2連梯子から隣地へと救助しました。

救助完了その後は各隊手分けし、各住戸を検索し逃げ遅れを確認したところ8名の要救助者がおり、窓ガラス等を破壊し地上部分へと救出しました。

また、活動途中に到着した緊急消防援助隊福岡県隊と合同指揮のうえ協力して、1階駐車場部分のつぶされた車両および全住戸の検索を行った結果、新たに要救助者1名を発見し、福岡県隊が救助しました。そして、ガスの供給弁の閉止を協力して実施し、3時58分に処置完了しました。

救出総人数は13名で、熊本市消防局が12名、福岡県隊が1名を救助することができ、負傷者なしで活動を終えた事案でした。